

⑩ 地域という「異業種集団」で鴨居の魅力をもPR 「『5K(感謝・好奇心・公平・交流・健康)』の心構え+『楽しさ』が地域活動の極意」

退職後は地元に戻り恩返しを

平成6年に会社を定年退職するまでは仕事一筋の会社人間で、近所づきあいや地域での活動はすべて妻任せでした。PTA役員や体育指導委員(現スポーツ推進委員)だった妻から、「退職後は、お世話になった地域でボランティアをして恩返しをして」と言われていたこともあり、地域で何か活動したいという思いはありました。

退職直後は「サンデー毎日」を楽しんでいましたが、3か月で退屈し、緑区が主催する生涯学習講座に初めて参加しました。ところが、参加者の大半は女性。男性は隅っこにポツンと数人いるだけ。女性のパワーに圧倒され、当時の区の担当職員に「やめた」と伝えたところ、「地域はどこへ行っても女性が活発なんですよ！男同士ががんばろう！」と励まされて、講座を続けました。続けているうちに顔見知りが増えてきたことで、楽しくなってきましたね。しばらくして、同じ職員か

ら生涯学習講座の運営ボランティアをやってみないかと誘われました。彼にアドバイスを受けながら、企画から講師探し、チラシや資料の作成、司会まで講座運営のすべてを運営ボランティアで行いました。この活動の中で、講座参加者の中から「この人ならできるな」と思う人を運営ボランティアに誘い、仲間を増やしていきました。この講座の卒業生を中心にいくつか新しいグループが作られ、今も活動が継続しています。

初めて連続講座に参加した時に、尻込みしてやめていたから、今の私はいなかったかもしれないですね。地域活動に入るには多少の勇気が必要です。

問題点ではなく魅力をPR

私の活動が大きく広がったのは、平成9〜10年度に緑区が開催したまちづくり研究の講座への参加でした。1年目は鴨居駅周辺のいいところ、悪いところについて検討したのですが、参加者の多くが交

通渋滞や歩道が整備されていないといった鴨居駅周辺の道路に関する問題点に注目していました。地元住民として問題点ばかりに目を向けられるのが気になり、2年目は鴨居の魅力(良さ)をPRしたいと考え、まちの魅力を探すグループに参加しました。

2年間の講座を終え、まちの魅力を探す活動をしてきたグループから有志7人で、平成11年度に自主活動グループ「鴨居駅周辺まちづくり研究会・魅力づくり隊(通称・鴨居まち研)」を結成し、鴨居駅周辺のエリアにある歴史や自然といった魅力を紹介する「魅力マップづくり」に着手しました。

マップづくりには、地域住民を巻き込むことが大切だと考え、皆でまち歩きをして、地域の魅力を再発見する「魅力発見ウォーク」を企画しました。100人を超える参加応募があり、参加者からたくさん地域の魅力を教えてもらい、マップに盛り込みました。自分たちの暮らすまちの

魅力を多くの人が共有することで、地元を好きになり、また同じ地域に暮らす人々と顔見知りになることで、コミュニケーションが円滑になりコミュニティが活性化します。皆の力でマップを作ったことは、地域の共有の財産になりました。

市民活動グループである「鴨居まち研」の活動を地域に受け入れてもらうために、新しいことを始める時には鴨居連合会長や長老の方々に相談しました。鴨居の地域特性だと思いますが、包容力のある人が多く、相談するといつも「いいね」と新しい取組を応援してくれました。連合会長に鴨居まち研の活動を知ってもらうために、会議や行事で挨拶をお願いしたり、長老の方々にも鴨居まち研のメンバーになって頂き、活動を知ってもらおうよう工夫しました。こうして少しずつ地域との関係が出来ていく中で、自治会活動に誘われ、最終的に平成12年から単位自治会の会長になりました。

狩野 陽一さん

鴨居連合自治会事務局長、鴨居駅周辺まちづくり研究会相談役(初代表)、鴨居原市民の森愛護会顧問(初代会長)、かながわのあすを築く生活運動協議会副会長等。

「鴨居まち研」は鴨居駅周辺を中心にエキコンや清掃活動、歴史講座、ウォーク、地域デビュー講座、子供向けの玩具づくりなど、自治会、地域住民と連携して幅広い活動を続けている。



聞き手

安養寺 智

緑区地域振興課地域力推進担当係長

門脇 賢一

緑区地域振興課地域力推進担当

北見 秋満

緑区地域振興課地域力推進担当

「自治会町内会とうまくいかない」という市民活動団体の話をよく聞きますが、お願いごとをする時だけでなく、日頃のおつきあいが大切だと思えます。日常的に顔の見える関係、信頼関係を築くことが、「ここぞ」という時に生きます。地域との連携は活動を広げていくうえで欠かせないものですね。

皆が得意分野で主役に

地域活動を継続していくには5K（感謝・好奇心・公平・交流・健康）の心構えが大切です。即ち感謝の気持ちで接すると仲間が増えます。また好奇心は心の若さが保てます。更に他との交流で情報が増えます。そして何より活動の基本は「楽しい」ことに尽きますね。



魅力マップを用いて長屋門を紹介

そして、地域は会社と違い、上下の関係でなく横のつながり。皆の力で成り立っています。皆が平等に主役になれる場づくりを常に意識しながら活動してきました。

鴨居の歴史を知ってほしいと考え、寺社や歴史を解説する説明板づくりを行った時は、鴨居まち研のメンバーの他に多くの地元の方に協力して頂きました。地域は「異業種集団」で、様々な経歴・得意分野を持つ人々がいいます。

この時も土木技術者だった人の設計図に従い、皆で穴を掘り木枠にコンクリートを流し込み看板を設置しました。地域に関わっていると毎日学びがある。皆でアイデアを出し合えば、パワーが発揮できる。だから地域活動は楽しいです。

楽しみながら、無理せず自分の力でできることで皆が主役になれる環境づくりを意識して組織運営を進めました。出番があると、元気につながりますから。健康維持になります。人と人をつなげる、組織と組織をつなげる、こうした活動をしているうちにいつの間にか、いくつもの団体に関わっていました。もちろん、失敗もたくさんあります。例えば、鴨居まち

研で初めて「エキコン」（駅コンサート）を開催した時、鴨居駅に近隣住民から「うるさい」とクレームがありました。その次の「エキコン」の時、事前に駅周辺のマンションの管理組合等に案内状を届けたところ、クレームは無くなりました。鶴見川で行う「鴨居どんど焼き」も同じです。風向きによっては周辺のマンション等に迷惑がかかるので、あらかじめ近隣の住宅やマンション管理組合等に案内状を届け、行事への参加の呼びかけと理解を求めています。何か活動する時は、相手の立場で物事を考えることが大切です。対立は無意味です。相手の立場にたつて行事の催行の仕方を工夫することで、互いに気持ちよく活動できると思っています。

後継者はバランスがとれた人

10年ひと昔と言いますが、私は5年ひと昔という意識で活動しています。どんなに柔軟でいようと心掛けても、どんどん古くなる。5年が一つの区切り。代替わりすれば組織の意識も変わります。これまでの役割をバトンタッチする際の目安は6年ですね。5年ひと昔だから5年ですが、大抵は任期が2年なので、6

年を目途に交代しています。2年で組織や活動を覚え、3〜4年目でニーズに合ったやりたいことを実現して、5〜6年目でまとめる。鴨居まち研も鴨居原市民の森愛護会も、任期終わりの2年前くらいから、目ぼしい人に声をかけ、時間をかけて話し合ってきました。

後継者にとと思う人は「敵をつくらぬ人・バランスが良い人」。内容にもよりますが相手の発言を否定する人はダメですね。一つの団体をまとめるには、異なる意見を平等に聞きながら、最終的に皆が納得する形で落としどころを見つけないといけないかもしれません。また、自分たちの活動で満足するのではなく、様々な団体と連携していくことも大切です。点と点を結んでいけば、面になり、活動も広がっていきます。

なにより仲間を増やし後継者を育成するには、活動そのものが楽しいことが重要です。その一方で、「楽しい」だけだと趣味団体になってしまいます。少しでも「地域を元気にする」「地域に貢献する」ためには、行政、自治会、他団体とのコラボレーションが大切です。コラボレーションは地域を

元気にしますよ。また、コラボレーションすることで活動の普遍性・公共性が高まり、人材や情報も集まりやすくなります。

地域は未来形です。仲間が集まって地域の話をすると、会話が自然と「未来形」になり、自分たちの手でまちをよくしたいという思いが強まります。

「インタビュアーを終えて」

地域のために何が出来るかを日々考えている狩野さんからこそ、良い仲間や支援者に巡り合い、活動が広がったのだと思います。（門脇）

まちの「課題」ではなく、「魅力」に着目し、魅力マップやエキコンなどを通じてまちの魅力を発信したことで、鴨居の魅力「アップ」につながったことが素晴らしいと思います。ともすれば我々は地域の「課題」に目を向けがちですが、「魅力づくり」という視点の重要性を実感しました。また、「コミュニティデザイナー」として地域を元気にできる人は「皆が主役になれる」工夫や様々な団体と協働することで、一人ひとりを輝かせ、活動の効果や範囲を広げていくのだと感じました。（安養寺）